

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1187 号	氏名	Luz Mark Anthony De Vera
学位審査委員	主 査	平山 謙二	
	副 査	皆川 昇	
	副 査	安田 二郎	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、近年流行が拡大しつつあるデングウイルス 4 型の流行拡大要因をゲノムシフトの観点から明らかにしようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>2015 年から 2017 年に、発熱を主訴にマニラ市内の病院を外来受診した 537 名を対象に、デングウイルスに特異的な抗体検査により診断を確定したのち、蚊由来の C6/36 細胞を用いてウイルスの分離を行った。分離したウイルス株の E 遺伝子領域の DNA 配列を決定したのち、4 型ウイルス遺伝子のこれまで登録された配列と比較検討した。きわめて断片的なウイルス情報ではあるものの、1956 年以来フィリピン国内で分離され遺伝子配列が登録された 82 株の 4 型ウイルスの情報を合わせることで、遺伝解析が可能となり、研究手法は妥当であると判断した。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、フィリピンで検出された 4 型ウイルスには、遺伝子型 GI 及び GIIa が存在すること、そのうち GIIa が 2000 年以降優勢となり、さらに今回新しく分離した 15 株のデータを加えた遺伝的多様性の解析から、2013 年以降に急速にその流行が拡大した可能性が大きいことが明らかになった。観察された遺伝子型の入れ替わり、および拡大という現象と遺伝子変異との機能的な関連をさらに追及することで、今後の感染症遺伝疫学研究への進展が大いに期待される。</p>			
<p>以上のように本論文はウイルス感染症学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			